

親潮

oyashio 北水同窓会誌

第289号
平成19年度 第1号

水産学部
創基100周年記念
スペシャルトーク



水産科学研究院長

原 彰彦 &



北水同窓会会長

横山 清

創基100周年記念行事報告

社会で活躍する
OG・OB グッズジョブ!



学生発～ Hello! 研究室

「水産科学をささえる微生物学の魅力」

笠井久会先生



話題の交差点 同窓会だより

CONTENTS [もくじ]

水産学部創基100周年記念 スペシャルトーク	3
水産科学研究院長原彰彦 & 北水同窓会会長横山清	
学部創基100周年記念式典 感謝のことは 水産科学研究院長 原彰彦	7
母校創基100周年記念事業 募金協力へのお礼 北水同窓会会長 横山清	7
水産学部創基100周年記念行事報告	8
総務委員会委員長 吉水守	
話題の交差点 同窓会だより	11
「七重浜絆の会」北水第41期(昭25漁卒)同窓会	赤根睦夫(25ギ)
八紘会関東地区会報告	土屋 要(17ギ)
北水同窓会愛知県支部総会開催	藤井洋治(42ギ)
大島栄一君(昭30工)瑞玉小綬章を受章	富田幸二(30セ)
埼玉県支部総会と懇親会報告	白井純二(48食)
同窓会費!...納入のお願い!出過ぎた事を、言う老齢の会員より!	
会員の受賞に関する紹介AWARD	宮下和夫(特別会員)
追悼寄稿	15
利蔵先輩(23ギ)逝く	倉兼賢治(46ギ)
義理と人情の男 佐藤利蔵さん(23ギ)を偲ぶ	山上顕夫(26工)
社会で活躍するOG・OBグッズヨブ!	16
(株)ユニバックジャパン 蟻田昌伸(平2食)	
国立科学博物館 窪寺恒己(50増)	
北京康楽飲食管理有限公司 江下健一(平6食)	
FFAインターナショナル(株) 高取一磨(61食卒、63MC修了)	
学生発「Eco」研究室 「水産科学をささえる微生物学の魅力」	18
退職の「あいさつ」	19
三宅秀男(特) / 山本勝太郎(42ギ)	
村上 敬(特) / 猪上徳雄(41セ) / 田島研(43食)	
親潮インフォメーション	21
編集後記	21

お知らせ 第87回 定期総会報告

北水同窓会第87回定期総会は、平成19年5月26日(土)に函館国際ホテルを会場として、北大水産学部創基100周年記念行事に合わせて、開催された。横山清会長(35工)以下190名に及ぶ会員の出席を得て、高橋豊美副幹事長(44工)の開会挨拶後、議長に島崎健二氏(33工)を選出し、議事に入った。

まず、議案第1号平成18年度事業経過報告および会計決算報告について、猪上徳雄幹事長(41セ)から一般経過報告の後、本部幹事による各議案の説明があり、これらが一括して承認された。

次に議案第2号について、平成19年度役員改選案と次回第88回定期総会開催地を東京とする提案がなされ、これらが承認された。また期日も5月24日(土)であることが認められた。続いて、平成19年度予算案について各幹事より説明・提案があり、承認された。これらの議案の終了後、横山清会長からの挨拶、入江和彦大阪支部長(45ギ)からの食育フォーラム(6月23日開催)の案内、および猪上徳雄幹事長の退任挨拶があった。

総会に参加されました会員の皆様には心より感謝申し上げます、総会の報告と致します。

文責 水田浩之(庶務部幹事)



水産学部
創基100周年記念
スペシャルトーク



●セイウチ(1949年)
同窓の方々に懐かしい気持ちにさせるセイウチの剥製。現在は講義棟の奥ロビーに配置されている。かつては講堂の前に置かれていた時代もあった。当時、セイウチの裏側にある講堂のことを学生たちは「ドウラ」と呼んでいたという。なぜドなのかは不明である…。

水産科学研究院長

原 彰彦

&

横山 清

北水同窓会会長

母なる川は水産学部。

網の目のように、

強じんな経験を編んで、

ここから大海に

乗り出そうじゃないか。

過ぎし時をつなぎ、懐かしき想いを広げ、

今を生きる人と人をむすぶ。

誇りある北水の精神を未来へとつないでゆくために――。

われらが北水同窓会の使命を果たすべく、

本誌では水産学部創基100周年記念・特別対談を企画いたしました。

対談するのは、原研究院長と横山同窓会会長。

お二人が過ごした時代を振り返りながら、全国に広がる

会員、支部のみなさまとともに、

これからの北水がはぐくむ若き研究者たちへの期待と

夢をめぐらせてみたいと思います。

※この対談は、平成19年5月27日に行いました。

なぜ北水だったのか？
それは、海をめぐる夢。
北海道への憧れ。

横山 100周年の式典は、お天気に恵まれました。天気予報は100パーセント雨、強風だったのに、朝起きたら晴れていた。曇り空すらこじ開けてしまった水産学部という感じがします。

原 はい、どたんばで逆転勝ちです。天気もわれわれ北水の味方をしてくれました。

横山 僕は昭和35年の卒業だから、原先生は11期後輩にあたるわけですね。東京出身だと聞いていますが、先生はなぜ北大の水産学部には？

原 5歳の頃まで鎌倉で過ごしたんですが、近くに和賀江島があつて、魚、ヤドカリ、ウミウシの宝庫でした。そんな影響もあるのか、船に乗って海に採集に行くチャンスが多いたろうと思って水産学部をめざしたんです。北大を選んだのは、北海道への憧れもあつて。

横山 会長は北海道生まれですよね。炭鉱で仕事をして、それから北大に入られたそうですが。

横山 僕は芦別の生まれで、鍛冶屋の息子だったんです。親父は鉄とか農機具を作つていて、「オレの刃物は日本一だ」なんという男で。当時は、田舎の子供はみんな家の手伝いをしていましたから、せがれは自分の跡を継ぐもんだと親父は思つていました。親父に「大学に行きたいんだけど」なんて言つてみたけど、「ばかやろ」

つて怒られる始末で。それで炭鉱会社に入ったんです。芦別が炭鉱でほとんど賑わつていた頃だから、まずは石炭掘るような仕事でしっかり働いて、と思つて。

原 働きながら勉強されて北水をめざしたということは、ご苦労があつたのではないですか？

横山 朝晩働いて、大学のことを考えてみたり、やっぱり無理かなと思つたり。炭鉱の仕事仲間にも大学をめざしている人がいて、旺文社のラジオ講座を聞いて勉強しましたね、2年ほど。そうして受験して、アルバイトと奨学金で卒業しました。

実はね、北水に入るまで、僕は海を見たことが2回しかなかったんですよ(笑)。芦別は山の中だから。初めて見たのは子供の頃。二度目は、「お前は大学に行かせてあげられないから、せめて修学旅行に」といつておふくろが行かせてくれた修学旅行。初めて青函連絡船に乗った時、「お、海だー」って感動しました。それで、自分は船乗りになろう、そして儲けよう、と思つた。結果的には、魚も扱うスーパーの社長になりましたけど。

原 私は大学でフランクトンを研究しました。フランクトン講座の元田茂先生の最後の4年生で、先生と一緒におしよ丸に乗つて3カ月航海で北洋にも出ました。卒業してからは、北水の2期生の先生(故佐藤忠男先生)が所長を務めていた矢野養殖研究所で牡蛎の研究をしました。牡蛎を無菌化するシステムを發明して生食用を売り出すことに成功した研究所です。ここでの研究はその後に



■原 彰彦(はら・あきひこ)
北海道大学 大学院水産科学研究院院長
1947(昭和22)年生まれ。1971(昭和46)年、北大水産学部卒業、三重県志摩の佐藤養殖場付設的矢野養殖研究所での研究の後、北大医学部研究生、医学部助手をつとめる。その後、水産庁養殖研究所の農林水産技官、主任研究官を経て、北海道大学水産学部に戻り1995年、教授に就任。日本水産学会進歩賞(2001)、日本水産学会論文賞(2004)受賞。原研究室では、魚の卵がどのようにして大きくなるのかというテーマのもと、卵黄蛋白前駆物質ピテロジェニンを中心に研究を進めている。

とても役に立ちましたね。いかにして安全な食としての水産資源を売り出すかを学びましたから。

私たちの学生時代。
経営学はすべて、
北農寮で学んだようなもの。

横山 僕は大学では寮生活でした。恵迪寮に入った翌年、執行委員長になりました。動機は良くないんですけど、メシがタダになるから。だつて助かるもの。

函館に移つてから、今度は北農寮に入りました。ここでもやっぱり執行委員長になりました。なつたというよりも、やら

水産学部
創基100周年記念
スペシャルトーク

水産科学研究院長 同窓会会長
原 彰彦 & 横山 清



■横山 清 (よこやま・きよし)
北海道大学水産学部 北水同窓会 会長
北海道大学経営協議会委員

1935(昭和10)年生まれ。1960(昭和35)年、北大水産学部卒業、流通業界に入る。ダイマルスーパーの常務、専務を経て代表取締役社長就任。その後、株式会社ラルズに社名変更。株式会社福原との経営統合を経て株式会社アークス設立。道内最大手スーパーを率いる代表取締役社長として手腕をふるう。道経済連合会副会長、道スーパーマーケット協会会長ほか要職多数。フィンランド名誉領事、札幌ユネスコ協会会長を務め、JICA研修協力、国際インターンシップ受け入れなど、人づくりと国際貢献をめざした活動を広く行っている。

されたんだけど、飯代がタタで助かるどころか、ひどい目にありました。漬け物屋は金払えと言ってくる、米屋も来る。払いをちよつと待ってくれって頼んだり、まかないの人と相談したり、とにかくお金のやり繰りばかりしてました。

だいたいが、みんな寮費未納。小さい売店に団子とかドーナツとかあつて、大学ノートも置いてあつてみんなツケで買う。佐々木さんというおばさんがいてね、私に言うわけですよ、「委員長ね、売店もね、仕入れするのが大変なんですよ」つて。見たら売り掛けの山だものね。それで味噌や米、パンとか、なんとかお願いして、仕入れさせてもらつて。経営学を寮で学んだようなものでした。

原 私は残念ながら寮に入れなかったで

すね。当時は寮の希望者がとても多い時代で、私の親父が医者だったものだから、それだけでだめだった。ただ、東京の高校時代の同級生が4人くらい北大にいて、彼らは寮に入ることができたものだから、よく遊びに行きました。私の時代には、教養のすぐ裏に恵迪寮がありましたから、休み時間といえは寮で過ごしました。

横山 周りの人にずいぶんお世話になつたものだし、しみじみ思いますね。金払えないなら家庭教師やれと言ってくれる人がいたり、当時の学部長だった田村正先生とか、斉藤恒行先生とか、家で飯を食わせてくれたり。ありがたいものです。

原 100周年式典に、戦前に卒業された同窓の方の息子さんという方が参加していました。その息子さんが言うには、「父は北水のことをいつも言っていた、とてもお世話になった人がいたと常に言っていた。それで、ぜひ私も式典に参加してみたいと思った」ということでした。時代の背景はそれぞれ違いますが、北水は、学生と先生、周りの人を含めてとても近くて濃く人間関係があるところですよ。

若い頃はそう思わないが、
四十代くらいから
人恋しくなる。

横山 卒業して社会に出ると、40代くらいから人恋しくなるんだと思いますね。卒業してすぐの頃は、僕も同窓会の存在はあまり知らなかったんだけど、ひとま

わりくらい上の同窓の人たちが花見かなんかで誘ってくれてね。金いらなから来いとか言つて。

原 きっかけが大切なんですよね。私は本学のサイクリング部に入っていました、OB会を作つて集まっています。今も昔も、同じ場所にいる仲間に対する親しみというのは変わっていないんだと思いますね。

横山 同窓というのはつながりです。北水の自分と今の自分がつながつて、いろんな人とながつて、それで気持ちもつながつてね。社会に出たときの人脈づくりにもなるでしょ。母なる川は水産学部なんだから、そこから網の目のように、人脈を張つていける。同窓会にはそんな役割もあるんですよ。

特に学部長はスパイダーマンのようなものだと思ふからね。ぜひ、クモの巣のネット構築をしてください。

原 その通りですね。私も横山会長のようにもっと積極的に人とつながるようなことをやればよかつたなと思います。

横山 会長のお話を聞いてみると、若い頃に積み重ねたものを体で覚えていて、社会に出たあと、それが全部、今に生きている感じを受けます。北水はいいところだ、北海道はいいところだ、学問だけではなくて人と人の関わりが熱くていいところだと誇らしくなります。

横山 そこが大事なんです。若い人たちは、今のうちからたくさん仲間とつながるチャンスをあげて、同窓会がちゃんとフォローもしてあげないとね。

**ハイテクばかりに
目がいけりけれど、
大事なものはベースとなる精神。**

横山 僕は、25年ほど前にある団体で、ピーター・F・ドラッカーさんを講演に呼んだことがあるんですよ。「イノベーションと起業家精神」という本が出たばかりの時です。日本では、イノベーションとは先端技術の革新だなんて言われているけど、ドラッカーはそうじゃないと言っている。技術革新ではなくて、新しいものを創り出すという考え方をきつめて、新しい製品やサービス、技術を創り出し、それを提供し続ける作業のことだ、と言っている。皆、ハイテクばかりに目がいっているけど、大事なことはイノベーション、創新ということだと思う。

原 われわれにとってもまさにイノベーションの精神が大事ですね。未知の分野に挑もうとする気持ち、新しい技術を創り出して提供し続けるという作業が大事です。先輩方の100年にわたる教育研究を継承してきて、それが今、さまざま*大型プロジェクトへと結びついたりしているのだと思います。

横山 そんな分野でも、いちばん求められているのはイノベーションです。これからは、研究テーマも5年、10年先を見据えて、前の先生がやっていたからという範疇でやるのではなくて、先を見たテーマを設定して、リスクはあるけれどもハイリターンもあるよ、そういうものを創っていく

なければならぬと思いますね。

原 函館圏では今、産学官による産業活性化の試みが進んでいますから、新しい産業を創り出すことで地域に貢献するという大きな役割がわれわれにはあります。基礎研究をしつかりとやることで、実学を重視する大学としての貢献をしていきたいですね。

横山 そうですよ、ハイテクだけの実学なんてありません。山の頂上みたいなもので、ハイテクのイノベーションは7合目、8合目あたり。だけど大事なものは2合目、3合目、つまりロケット、ノートの世界です。この基礎の部分があつてこそハイテクが生まれる。実学がないと最先端ハイテクに到達できないんです。

**人間の根幹を
支えるような教養が、
やがて人間力になるのだから。**

横山 大学で専門性の高いことを勉強するのは当たり前だけど、もっと大事なものは、ものを読んだり書いたり、発想力とか独創性をつけることかな。今はみんなレディメイドみたいなものばかりだからね。学生時代に時間やチャンスがあるならば、やれることはなんでもやってみることだね。

原 私はもっと本を読んでおけばよかったと思ったことがありますね。ニーチェはこう言ったとか、ああ言ったとか、そういう人がいると、私はよく下を向いていましたから(苦笑)。

横山 酒を飲んでいる時はどうしようもないような奴だったりするの、本のこととて言い合っていたりするのを見て、これじゃまずいぞ、と思ったりして、僕もめっちゃ本を読んだね。議論にならないと悔しいからね。

社会に出ると、与えられた仕事をやるだけじゃなくて、自分で問題を見つけたら、解決する方法を考えたり、自分の行動で結果を出す力が必要になるんだよね。そのもとになるのは、学生時代に何を経験したか。どう過ごしたかじゃないかな。

原 水産学であろうと工学であろうと、創造力の本質を身につけることが、未来を生きる力になるということですね。深く掘り下げる目、広く見渡す目、発想する力とか責任感。そういうことを身につけるのが学生時代ですね。

横山 そうです。大学でただ与えられた知識を受け取るのか、それとも自分から何かを得ていくのか。これが大きな差になっていくと思います。つまり、大学では人間形成のための、人間力をつけるベースを養え、と先輩たちには言っていますね。



この教室ができたのは1970年です。こんな教室で学べるのだから今の学生はいいですよ(原)

階段教室なんて、ぼくらの時代にはなかったね(横山)

*世界水準の研究教育拠点形成を目指す「21世紀COEプログラム(革新的な学術分野)」の「海洋生命統御による食糧生産の革新」が、2004年(平成16年)に採択された。このプロジェクトに対しては、各方面から世界レベルの成果が期待されている。

学部創基100周年記念式典 感謝のことば

水産科学研究院長
原 彰彦

今年5月26日、前日の大荒れの天候が一転し好天に恵まれたなか、北大総長はじめ多くの来賓、同窓生、教職員約350人が参加し、本学部創基100周年記念式典が講堂で盛大に執り行われました。



館が公開され、式典後には100周年記念除幕式や動物写真家田中光常氏、アラスカ大学国際北極圏研究センター所長・オーロラ研究家の赤祖父俊一氏による講演会が行われました。祝賀会にはさらに多くの同窓が参加し、約450人が集い大いに盛り上がり、全員で創基100周年を祝うとともに逍遙歌・寮歌の合唱をして、新たな100年の学部の発展を誓いました。翌27日には練習船の一般公開や桜の記念植樹が行われました。

式典の内容に関しては本誌内に紹介がありますが、この度の創基100周年記念事業を後援くださいました北水同窓会長横山 清氏をはじめ、各支部長ならびに支部会員の方々、さらに本事業にご賛同くださいました企業・団体各位に対し厚く御礼申し上げます。



水産学部創基100周年記念

母校創基百周年記念事業 募金協力へのお礼

創基百周年記念事業推進後援会会長
北水同窓会会長
横山 清(36エ)

母校は、開設以来明治、大正、昭和、平成とその時々時代背景の中で、苦難を乗り越えて今年で百周年を迎えることができました。平成16年8月に母校に記念事業実行委員会が設立されたのを受けて、北水同窓会では記念事業を援



助するために平成17年5月の名古屋での定期総会において、私が同窓会会長に就任すると同時に記念事業推進後援会も設立され、その会長にも就任することの了承が得られました。大きな記念事業として「教育研究・学術交流支援基金」の設立のために、同年9月には同窓各位、10月からは関連企業、団体等にご協力を呼びかけてまいりました。この結果、経済状況が厳しいにも関わらず、基金の趣旨をご理解いただき、寄附金は目標を上回ることでできました。同窓各位はもちろんのこと、関連企業、全国各支部長、その他の方々の母校を支援する貴重な醸金を頂戴しましたことに心から感謝申し上げます。

次なる百年への分水嶺となる記念式典は水産学部の講堂で多数のご来賓と同窓及び母校教職員の参列のもとで厳粛に挙行できましたことはたいへん喜ばしく、母校が今後とも地域はもちろん全世界に向けて人間力が漲る人材を輩出していくことを期待し、お礼の挨拶とします。



伝統をたたえ、節目を祝う

水産学部
創基100周年

記念行事報告

行事日程

記念式典当日は前夜の嵐が嘘のように一転、穏やかな天気となり、下記日程の記念行事は予定通り執り行われました。

◎5月26日(土)

- 記念式典 10:00～11:15 学部講堂
- 記念碑除幕式 11:30～11:45 学部キャンパス
(函館国際ホテルへ移動:バス13:10発～)
- 記念講演会 14:00～16:10 函館国際ホテル
- 北水同窓会総会 17:00～17:40 函館国際ホテル
- 祝賀会 18:00～20:00 函館国際ホテル
- 水産科学館公開・展示 8:30～14:00 学部キャンパス
(水産科学館リニューアルセレモニー 9:00～)

◎5月27日(日)

- 練習船公開 8:30～12:00 函館港西埠頭E岸壁
おしよろ丸・うしお丸(船上レセプション10:30～、於おしよろ丸)
- 水産科学館公開 8:30～12:00 学部キャンパス
- ☆5月中～下旬: 記念ソフトボール大会(教職員・院生・学生参加)
学部グラウンド

北海道大学水産学部の伝統をたたえ、100年の節目を多くの関係者や来賓とともに祝う記念行事が5月26日、27日の2日間にわたって盛大に執り行われました。また同月、学生を中心とした研究室チームによるソフトボール大会、寄付金による水産資料館リニューアルなどが記念事業として実施されました。それぞれの概要をご報告いたします。

(文責/総務委員会委員長・吉水 守)



【記念式典】



式次第

式典オープニング演奏

開式の辞

物故者慰霊(黙祷)

学部長式辞

総長挨拶

祝辞

国立水産系大学代表東京海洋大学学長

函館市長

記念事業推進後援会会長

感謝状贈呈(功労者)

表彰状贈呈(永年勤続者)

祝電披露

閉式の辞

キャンパス内は毎年行われる教職員・院生・学生による一斉清掃と事務職員による献身的な準備により、式典当日の清々しい朝を迎えました。受付開始前後より続々と参列者が押し寄せ、卒業生250余名、寄附関係者、学内関係者等をあわせて約450名が参加し、創基100周年の記念式典が厳かに始まりました。水産学部交響楽団による「都ぞ弥生」が演奏され、開式の辞に続いて本学部関係物故者を偲んで黙祷が捧げられました。

はじめに原学部長による式辞、佐伯北大総長による挨拶のち、3名のご来賓より祝辞が述べられました。その後、学部の発展に寄与された函館市、(財)北水協会、南かやべ漁業協同組合、野村水産社長、書家鈴木氏、指揮者村川氏(総長より授与)、学部長経験者7名を含む元教官71名、元事務官・技官37名には感謝状と記念品が贈呈されました。また、学部にも長く勤務された教職員34名には表彰状と記念品が贈呈されました。このうち国内企業・団体、同窓会各支部、内外の大学等からの祝電が多数披露され、閉式の辞をもって記念式典は終了しました。



【記念碑除幕式】

記念式典終了後、場所を水産学部講堂から管理研究棟(本館)玄関前に移し、水産学部創基100周年記念碑の除幕式が執り行われました。

記念碑のデザインは函館キャンパスの学生・教職員から広く募集し、多くのユニークな案が寄せられましたが、厳正なる選考の結果、クラーク博士が赴任された時の言葉「Lofly Ambition」の和訳「高邁なる野心」を黒御影石に刻んだ石碑が採用されました。書体は函館市内教員で書家の鈴木大有氏による作品。黒御影石は中国産、台座の白御影石は韓国産とした結果、日・米・中・韓の国際色豊かな記念碑に仕上がりました。

除幕は佐伯総長と原学部長の手で行われましたが、その除幕の瞬間、曇の切れ間から一筋の陽光が記念碑を照らし、北海道の大自然も水産学部を祝福しているかのようでした。その後この記念碑の前で、感謝状授与者、永年勤続表彰者などによる記念撮影が行われました。



【記念講演会】

記念講演は、市内の函館国際ホテル・鳳凰の間で行われ、同窓生をはじめ、学生、市民、合わせて400名を超える多くの参加者となりました。

お二人の先生の興味深い講演に、参加された皆さんは深い感銘を受けながら聞き入っていた様子でした。赤祖父俊一氏は、オーロラの素晴らしい写真に加えて、地球温暖化の中でアラスカの自然が置かれている現状についてのお話をされました。また、田中光常氏は、野生生物が住み難くなりつつある地球上で、特に北の海に生息する大型動物であるシロクマ、セイウチをはじめ、オラウータンやオーストラリアのジャコウネコなどの貴重なスライドを上映し、動物への深い愛情にもとづくエピソードなどについて話されました。お二人の講演内容はともに、時間の経つのを忘れさせるほどの素晴らしいものでした。

●演題「北極圏の物語」
アラスカ大学
国際北極圏研究センター
創設所長
赤祖父 俊一氏



●演題
「動物写真家として生きて」
動物写真家
田中光常氏(19年)

REPORT

【展示会】

記念式典と同日に、「北大水産学部の過去・現在・未来(次の1世紀を見据えて)」と題した展示会を開催しました。

会場は新築のマリンサイエンス創成研究棟1階の函館市産学官交流プラザに設置。国内の優れた研究プロジェクトとして採択された21世紀COE関連の研究状況をはじめとし、現在、学部・大学院で進められている最新の研究成果を紹介するパネルやポスター、DVDを展示しました。また、練習船にまつわる昔の水産学部

REPORT

【練習船公開】

函館港西埠頭に、練習船おしよ丸とうしお丸が横付けされ、5月27日の8時30分から正午まで公開されました。あいにくの雨模様、最高気温9・9度



の紹介として、「藤井元船長によるおしよ丸の航海記録 昭和29〜60年」を併せて展示しました。これは、50冊もの貴重なアルバムを奥様より寄贈いただいたものです。その他に、元田茂先生作のおしよ丸の絵画、札幌農学校二期生・伊藤一隆氏の卒業証書など、貴重な資料を展示公開しました。アルバムなどの資料は、今後図書館で随時閲覧いただけるように、資料室の設置を計画しているところです。

と肌寒い天気ではありませんでしたが、100名を超える同窓・関係者が訪船されました。同伴の夫人に自分の実習体験を熱心に説明している方、仲間同士で当時を懐かしく回想しあっている方、自身の乗船実習時代の船内と比べ、ずいぶんと進歩している搭載航海計器や居住設備を感慨深げに、そして学生時代に立ち返ったように目をきらきら輝かせて見学している方など、船内は熱気にあふれんばかりでした。

10時30分からは、おしよ丸学生食堂にてレセプションが行われ、和やかな歓談の時間を楽しましました。正午の閉会には応援団とともに水産放浪歌を合唱、最後に応援団からのエールを受けて、名残を惜しみながらの閉会となりました。

REPORT

【祝賀会】

祝賀会は総勢355名の参加のもとで盛大に行われました。開宴にあたって原学部長より挨拶があり、佐伯北大総長より祝辞が述べられました。その後、来賓・学部長経験者10名による鏡開きが行われ、記念講演をされた田中光常氏による御発声で祝宴となりました。これまでに学部長の重責を担われた佐藤、米田、絵面、山内の4先生にはお祝いの言葉などをいただき、宴もたけなわとなった頃、スライド「水産学部100年の歩み」がスクリーンに映し出されました。留学生6名によるお祝いも述べられ、留学生たちは皆、目にも鮮やかな民族衣装等で登場。

自己紹介とともに母国語によるお祝いのメッセージを発表し、会場から拍手喝采を浴びていました。クライマックスが近づき、応援団が巨大な団旗のもと、この日のために復活させたという演舞「海原遙か」を披露。次いで、現役応援団に負けじと元応援団員多数がステージに上り「道遥歌」斉唱。閉宴の挨拶では、横山同窓会長が「都ぞ弥生」の音頭を取ると同時に応援団が再登場して太鼓を打ち鳴らし、参加者全員が肩を組んで大合唱。こうして会は最高潮に達し、盛会のうちに終了しました。



創基100周年 記念事業の報告

■記念ソフトボール大会

5月の中旬から6月にかけて、創基100周年記念事業の一環として「ソフトボール大会」が開催されました。参加チームは学生を中心とした研究室チームのほか、事務部からの参加もあり、合計16チーム。トーナメント形式による熱戦が繰り広げられました。ベスト4に残ったのは、「チームあまのつち」、「KA200ライオンズ」、「魚油マクマリーZ」及び「チーム江刺家」で、決勝戦は6月4日に実施され、みごと「チームあまのつち」が優勝しました。準優勝は「チーム江刺家」。学生に負けることなく往年鍛えた熟年職員の成果が存分に発揮されました。優勝チームには、表彰状と副賞(100周年記念品)が原学部長より授与されました。

■水産資料館リニューアル

水産資料館は、1957年の水産学部創基50周年記念にあたり北水同窓会がその記念事業として建設・寄付を行った施設であり、その後1982年の創基75周年記念には、同じく北水同窓会の記念事業後援会によって別館が建設されています。創基100周年記念では、記念事業実行委員会への寄付金の一部を用いて、別館のリニューアルを実施、別館中央に大型スクリーン、ビデオ・DVDの映写装置、大型スピーカー、各種のコントローラーなどを配置し、水産学部にはない多目的スクエアを創出しました。この場所は、クジラ骨格などに囲まれた独特の雰囲気、創基100周年記念スクエア(通称:100周年スクエア)と命名され、今後は講演会、企画展示会、ミニコンサート、映画の上映会、休息・憩いなどの場として利用されることが期待されます。リニューアルセレモニーは5月26日9時から実施されましたが、こけら落としとして水産学部マンドリンクラブOB/OGによるミニコンサートが実施されました。なお、水産資料館は、本年4月1日より北海道大学総合博物館の分館となり、総合博物館水産科学館が正式名称となっています。

支部・会員の皆さまの近況報告、最新の話題など、さまざまなお知らせをお届けいたします。

※会員の皆様から寄せられた文章その他を原則として、ほぼそのまま掲載しております。

話題の

交流差

同窓会だより



「七重浜絆の会」 北水第41期(昭25漁卒)同窓会

赤根睦夫(25キ)

臥牛山が秋を知らせる、10月5日「本会22回目集い」を湯の川温泉「乃松」で西山先生をお迎えして開催される運びになった。席上先生は「このクラス会は今日まで毎年の様にキッチリと会合を続けて来ているのに、一度も報告をして居ない「会」である。…とのお言葉を頂戴し、いささか恐縮した次第であった。実はご多分に漏れず、かねてから名残惜しいが、そろそろ最後は函館で「幕切れ」にしたいとのこと、今回お別れの会のつもりでの「会」の筈であった。しかし西山先生のお言葉に触発されたのか。又、地元幹事沼崎氏からとび出したご挨拶の中で前回卒業50年を記念して、奇しくも同じ10月5日(木)この場所で開催されたことを発表され、一同改めて不思議なめぐり合せに驚愕した次第である。

宴も終りになり、二次会に移り、地元幹事から、当初の予定の通り、本会の最終回にしてよいのか? 継続すべきか? 改めて決め度いとの意向が出され、異口同音の如く、再会を夢見ることに異論なく、改めて沼崎

幹事の提案で、明年5月開催の創基100周年記念行事の参加に合せ再び相集うことが決定された。

恐らくみんなの胸の中は明年再会出来る安堵感に満されて函館をあとにしたことと思う。

八紘会 関東地区会報告

土屋 要(17キ)

今年も例年通り4月29日横浜駅東口の崎陽軒で行った。昭和の時代は20名以上も集って実に賑やかな年もあった。学校出てから65年も経つこの数年は参加者も毎年減り続け昨年は6名であった。今年も5名の予定が島崎君の緊急入院があつて4名となった。淋しい限りであるが何年も続いたこの会に終止符は打てない。生前この会

を楽しみに毎年出席していた小泉一夫、藤本巻蔵、添田恒三君の奥様方に御出席を依頼したところ喜んで参加して頂いた。閉会時刻の午後3時が待ち遠しかった昨年とは打って変わって今年はお天の禿山の枯木に花が咲き唄は出るし会話は弾み会は終りそうになかったが時計を見てびっくり。閉会予定を過ぎた午後5時だった。来年の再会を約して閉会しました。

御出席の御夫人方に深く感謝申し上げます。当日の出席者は青戸借爾、新井邦夫、清水栄、遊佐多津雄、小泉直子、添田幸子、藤本ふみ、土屋でした。

食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。

HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

- ★食品の微生物検査
- ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
- ★食品・副資材・調理室内の微生物の除菌菌テスト
- ★食品の賞味期限の設定
- ★保存テストのデータ蓄積
- ★その他衛生指導、社員教育などのご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造 松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源 佐藤いく子 平成17年資源

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL.011-786-8300 FAX.011-786-8266
URL http://www.qandc-lab.com/ E-mail haccp@qandc-lab.com

北水同窓会愛知県 支部総会開催

藤井洋治(42ギ)

梅雨空の中、6月16日(土)17時より名古屋駅前「座座はなれ」にて開催しました。

内田支部長(37ギ)のあいさつ、同窓生の名古屋港水族館海亀係長の春日井隆さん(平3ゾ)より「水族館の裏話」と題して講演があり、海亀の産卵、交尾、タイマイの養殖の話で大好評でした。100周年記念の報告、本年度の行事予定等を討議し、参加者の

自己紹介、最後に寮歌「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」、「校歌」を放吟し、20時半に散会した。

今回は平成年度の卒業生4名を入れて25名の参加者で大盛会でした。次回はさらに、若き人、女性の参加を期待します。

参加者氏名(26名) 野畑順(24セ) 深谷勲(36セ) 内田重司(37ギ) 野末秀俊(38セ) 三栗茂(39ギ) 原田洋(40ギ) 近藤忠実(40ギ) 兼崎英勝(41セ) 松村靖(42セ) 千葉茂胤(42ギ) 藤井洋治(42ギ) 山口皓(44工) 早瀬茂雄(45ギ) 武田喜美男(46セ) 日野輝幸(46ギ) 山田勉(48ギ) 神保重孝(54ギ) 田中利幸(58ギ) 伊藤浩(62セ) 富田敏靖(62ギ) 二木佳夫(63ギ) 春日井隆(H3ゾ) 丸山恵司(H5食) 徳本龍志(H5食) 井口謙(H5ギ)

大島栄二君(昭30工)瑞宝小綬章を受章

富田幸二(30セ)

元函館地方海難審判庁長大島栄二君は本年度春の叙勲で瑞宝小綬章を受章された。受章に際し大島君は「海無し県(埼玉県)に生まれ育ちながら北水遠漁卒業後は、一貫して漁船漁業に係わる職業に就くことが出来た。必ずしも楽な道ではなかったが、同窓諸氏の御支援を得て水産教育や海難審判にも微力ながら貢献できたことに深く感謝している。」と語った。

彼は卒業後北洋母船式鮭鱒・蟹漁業の独航船航海士、船長として、更に道漁業実習船、水産高校実習船船長として活躍した。昭和42年からは函館水産高校、京都府立水産高校の教諭を歴任、昭和48年には海

難審判庁に入庁し理事官、審判官を経て平成8年仙台地方海難審判庁長、同9年函館地方海難審判庁長、同10年65才で定年退官した。(海事補佐人登録)

その後約10年間大島君は悠悠自適の生活を送り今日に至っているが、海への情熱を未だ熱く抱いているのは、函館港湾合同庁舎や函館港を一望出来る函館市海岸町のマンションの4階に腰を落ち着けているのが何よりの証拠である。

従来海難審判庁の要職は商船大学の出身者で占められ、当学部の卒業生でこの道に進んだのは、学部創立百周年を迎えた今日まで大島君唯一人であり、彼の豊富な経



●写真は講演中の春日井隆さん(H3ゾ) 中央に立ってる人

験に基づいた確かな判断が、海難事故の分析防止に寄与する所大であったと考えるものである。彼は漁船に詳しい学部出身の有志が後に続くことを期待すると語っている。

最後に今回の榮譽は決して大島君一人の力に依るものでなく、私達海上生活の長かつた者が等しく感謝する伴侶の存在があった賜であり、その意味で私は長年家庭を守つて来られた奥様に、先づお祝いを申し上げ度いと思うのである。

そして大島君の今後益々の御活躍を期待すると共に、お二人で健康に留意され素敵な熟年生活を過される様希望するものである。



いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
鮮魚部 TEL 017(738)1281
冷凍部 TEL 017(738)8221
塩干部 TEL 017(738)5511
加工部 TEL 017(738)6581
企画部 TEL 017(738)1281
管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

埼玉県支部総会と懇親会報告

白井純二(48食)

平成19年度の埼玉支部総会は毎年第二土曜日としていましたが、会場を探しのため2月24日(土)の開催となりました。今回の会場となった「東天紅」は18階にあり、ここからの大宮の街の眺めもよく、さいたま市(旧大宮市)も広いものだと思感しておられました。出席者12名と今年も少なかったのですが、新しい方の参加もあり、お互いの近況報告などで自己紹介をしながら、楽しいひと時を過ごしました。

今回も48年卒の幹事が一番若手となっておりますが、参加された諸先輩の話を聴きますと、スポーツもされ、趣味も持ち、地元でも活躍をされていることもあり、年齢



前列左より/五十嵐憲治(S37遠漁) 小山光(S29製造) 長澤善雄(S28製造) 増田清岩(S32製造) 高橋守(S34遠漁) 山本潔(S35遠漁) 後列左より/白井純二(S48食品) 白崎博一(S46食品) 安藤隆(S48漁工) 二階堂勲(S42化学) 石黒祥之(S40製造) 吉川晴二(S41増殖)

的な老いを感じさせないものがあり、驚いております。昨年までは記念撮影した後に「都ぞ弥生」を合唱してお開きとなっていたのですが、会場が一般の席に近いためできずに終わりとなり、心残りでありました。今後も長くこの会を続けてゆきますので、埼玉在住の方一度来てみてください。今回の出席者を写真の順に紹介致します。

同窓会費……納入のお願い!! 出過ぎた事を、言う老齢の会員より!!

事務局からの会費納入のお願い!が、掲載されない会報「親潮」は、無い!!…様に思われますが…これだけは、納入して、戴きたい!!…と、思います!

色々と、事情は、あつても、年会費が、納められない北水会員は、居ない!!…と、思います!

お互い!同窓会員の一人で、あるわけですから、…この会報を、受け取った時だけは、同窓会員で、ある事を、思い起こして…同窓会・事務局の担当者が、運営しやすい様に、協力して戴きたい!!…と、お願い致します!

私は、会員!…と、して…一度も、投稿した事も、無いし!…又!…この様



な事を言える会員でも、ありません!!…寧ろ会員の皆様には、顔向けも、出来ない不義理な事を、しでかして来た!!…恥ずかしい会員で、ございます!!が、余命いくばくも、無い高齢に、免じて…出過ぎた事を、書きました!!…が、お許しください!

会費未納の同窓会員の方に、今回からでも、お納め下さる様お願い申し上げます!!一度!未納に、なりますと…前回も、未納で、済ましたから!!…と、改めて納入する事が、ためられる!!…と、思います!!…前回は、前回!!…今回!今年も、納入!!…と、納入を、お願い致します!

豊富な実績と万全な体制でさらに前進をつづけます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役社長 中山浩一

本社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号
PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939

釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3
PHONE (0154) 52-4104・FAX52-4103
<http://city.hokkai.or.jp/~nakayama/>

会員の受賞に関する紹介 AWARD

宮下和夫(特別会員)

細川雅史氏が 第41回日本油化学会進歩賞を受賞



●細川雅史氏

細川雅史氏が第41回日本油化学会進歩賞を受賞されました。受賞の研究題名は「水産脂溶性成分の機能性評価と高度利用に関する研究」で、授賞式が平成19年3月30日に東京の油脂工業会館で行われました。

日本油化学会は、油脂、油脂製品、界面活性剤、脂質などの科学と技術の進歩を図り、産業の発展と国民生活の向上に寄与することを目的として昭和26年に設立された歴史のある化学にゆかりの深い学

会です。毎年、この分野で顕著な業績を挙げた若手研究者二人に進歩賞が授与されておりあります。

細川氏は、学生、大学院時代を通じて、また、平成4年に本学に奉職されてからも、一貫して水産脂質の機能性や有効利用に関する研究をされてきました。同氏は、水産資源の高度利用を図ることを目的として、水産物に特徴的な脂溶性成分である海洋性カロテノイドや、n-3系高度不飽和脂肪酸(HUFA)を対象に検討を行い、その生理作用の解明や酵素を用いた有用成分の合成などに関し興味深い知見を得ております。その成果は、単に水産科学研究の発展に留まるだけでなく、新たな水産関連産業の創出に寄与するところが大きいと、各分野から高い評価を得ております。こうした評価が今回の受賞にいたった理由と考えます。

今後、今回受賞された内容がさらなる展開をとげ、新たな境地を開拓されるものと期待されているところです。

板橋豊氏が、アメリカ油化学会 Herbert J. Dutton Awardを受賞

板橋豊氏が2007年度のアメリカ油化学会Herbert J. Dutton Awardを受賞されました。授賞式は、今年の5月13日から

16日にかけてケベックシティ(カナダ)で開催された第98回アメリカ油化学会(AOCS)年会で行われました。

この賞は油化学の分野、特に分析化学の分野で顕著な研究業績と功績のあった研究者に授与されるものです。この分野の研究者リーダーであったHerbert Dutton博士(1914-2006)の功績を称えて名づけられたものです。脂質の分析化学分野での著名な研究者がこれまで受賞されてきましたが、日本人の研究者では板橋氏が初めての受賞かと思えます。

板橋氏の受賞は、同氏が長年続けてこられた「グリセロ脂質異性体(立体異性体や位置異性体)の分析法の開発とその応用に関する研究」が高く評価されたものです。板橋氏は、キラルHPLCを脂質化学分野に初めて導入され、この技術により、モノアシルグリセロールの光学分割を達成されました。その成果は、「ラセミ体は両エナンチオマーの等量混合物である」という有機化学の基礎をクロマトグラムを介して証明したものです。化合物の分析はすべての研究の出発点であり、最近注目されている、水産脂質をはじめとした機能性脂質の探索と開発においてもたいへん重要なバックグラウンドとなっています。

話題の

交差

同窓会だより



話題の
交差
同窓会だより

板橋豊氏が、アメリカ油化学会

Herbert J. Dutton Awardを受賞

板橋豊氏が2007年度のアメリカ油化学会Herbert J. Dutton Awardを受賞されました。授賞式は、今年の5月13日から

(有)山本食品研究所

山本 巖彦
山本 津彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地
TEL (0770) 23-0297(代)
FAX (0770) 24-2882
E-mail y-f-labo@aqua.hokuriku.ne.jp

同窓会だより 追悼寄稿

利蔵先輩(23ギ)
逝く



倉兼賢治(46ギ)

岩手県の水産教育の重鎮であられた佐藤利蔵先輩が、平成19年3月22日肺気腫で80歳の人生を閉じられました。この2〜3年入院を繰り返して居りましたが、母校(宮古水産高校)の同窓会副会長・顧問として総会等へ出席していただいており、お酒も飲まれて意気軒昂であったのに残念です。医師から煙草を止められており、止めていけばもっと長生きが出来たと悔やまれます。

先輩は、県内大槌町出身で宮水の前身である岩手県立水産学校を卒業後、本学の前身の函館水産専門学校へ進まれた水産筋の大先輩でありました。卒業後は、一時民間船に乗り組まれましたが、昭和25年大槌高校を振り出しに教員となられ、母校の宮古水産高校、船越分校の教壇に長く立たれ、学生時代に鍛えた相撲道の普及、指導に力

を注ぎ、岩手県内優勝を重ね、東北・全国大会と幾度も生徒を引率、更に県連盟の副会長を歴任されて相撲で佐藤利蔵先輩の名を知らない者は居ないと言われていました。そのため葬儀には、相撲関係者が多数焼香されていました。

水産教育の方でも、我々後輩へ大きな体同様に、鷹揚な心でご指導いただきました。長く教頭として直接助言等優しく諭されたことが心に残っております。飲み会では、必ず相撲甚句を唄われ、お元気だった事を思い出します。ご冥福をお祈り申し上げます。

義理と人情の男

佐藤利蔵さん(23ギ)を
偲ぶ

山上彌夫(26工)

桜の花が散る頃、4月末、私は、居住する仙台から、車で約6時間、三陸海岸沿いに、宮古に行きました。宮古には、築30年の家が、まだあるからです。一年半ぶり。早速、利蔵さん宅におしかけ、酒をくみかわしたい。これも、宮古行きの目的のひとつでありました。いつも、「やあー、宮古の名誉市民がきた。」と、奥さんともども歓迎してくれるのです。

夕方、都合をきこうと、電話したら、電話に出たのは、聞きなれない男の声。「父は、3月22日に亡くなりました。胆管ガンでした。」愕然。すでに1ヶ月以上も経っているではないか。なにはともあれ、利蔵さん宅に駆けつけ、祭壇の写真の前で焼香。奥さん、小さな声で、

宮古病院に入院中は、毎日、ここから歩いて行つたんですよ。1時間はかかりそう。気丈な奥さんだが、シヨクが大き過ぎて顔色がまだ冴えない。明日、改めて焼香に参ります、と玄関を出た。今年、始めて、利蔵さんに年賀状を出した。おり返し直筆の年賀状を頂いた。若いとき、すもうで鍛えた強靱な体だ。同年代の方々も、元気でおられる。まさか、簡単に逝くぞ……。私は、長年、公私にわたり、いろいろと、お世話になった。残念でならない。

利蔵さんは、昭和元年生まれ、三陸海岸大槌町出身。宮古水産学校から、東京高等商船に進学、一年で終戦となり、函館高水に転学した、と聞いている。母校の教員を振出しに、久慈水高、広田水高を歴任、長年にわたり管理職も勤められた。若い時期、勤務のあい間に、地元漁船の要請を受け自差修正(磁気コンパスのくるいを直す)の仕事もしていたのを知っている。海文堂発行「漁船」の著書もある。世話好きで包容力あり、卒業生の結婚の仲人は、枚挙に遑がない程だ。長年にわたり、岩手県相撲協

会の副会長として特に子供の相撲に力を入れ、青少年の健全育成に盡力された。

趣味の囲碁は、日本棋院4段の免状をひそかに持つておられた。宮古老人クラブ囲碁会長に据えられたが、特筆すべきは、碁会が終つてからのスピーチだ。碁の玄妙さを語り、人情の機微にふれる。ユーモラスな利蔵節。対局した餅屋の主人(3段)曰く「利蔵さん、碁は俺に、簡単につぶされるのに、どうして挨拶は、あんなにうまいんだろう。」と首をかき上げていた。こよなく酒を愛し、斗酒なお辞せず、いつも、最後の一滴まで、実にうまさうに飲んだ。酔つて、ふらつく姿を未だ見たことがない。宴、半ばに至れば「すもう甚句」相撲とりの哀歎が滲む名調子。

人いち倍の情感を持ちながら、愚直とも見える生き方。人は「利蔵さん」と呼ぶ。義理と人情に生きる利蔵さんだった。「男」に女に恵まれ、いずれも親しい。「酒」と煙草は、やめられませんでしたねえ。奥さんは、嘆く。生前、母さん、母さんと、何をすることも頼りにしていた。奥さんは、利蔵さんにとつて心の杖だったのだ。「わが人生に悔なし」という言葉がある。私は80点は、あげたい。お前さんはと問われたら、「背伸びして、50点です。」と答えよう。

語るべき利蔵さん、今はなし。ただただ、ご冥福をお祈りするのみ。

世界を相手に「食」を提供する仕事

(株)ユニパックジャパン 蟻田昌伸(平2食卒)

学生時代は、札幌、函館両方で体育会テニス部(当時部長・山内皓平先生)に所属した。ほとんどテニスをするために学校に行っていた状態で、おせじにも勉強したとは言えない。4年時は食品化学第二講座(高間浩蔵教授)に在籍、卒業では鈴木鐵也先生よりご指導を頂戴し、文系の人間ではまず経験できない研究職という組織に直接触れ、多くを学ぶことができた。感謝の気持ちで一杯である。卒業後、私は(株)東食に就職し、農産物の輸入を担当していた。一時北京に留学したが、帰国してまもなく会社が倒産。仲間も新天地を求め別々の道を歩み始め、私もまた日本(たばこ産業「J-T」)に転職した。ある時、(株)東食時代の先輩から会社を立ち上げようと私に参加の要請があった。「食」を通じ創造的で醍醐味ある仕事を果たしようということである。私はこの話に共鳴したが、何分にも転職したばかりでもあったので、この先輩が「足先に社長として会社を立ち上げた。これが(株)ユニパック・ジャパンである。一年後私はJ-Tを退職し、出資も行い合流した。

この10年間でアジアが本場に近くなった。TPOのようにアジア融合化の潮流を感じる。「食」は国によって独自の文化を持ち保守的なものだが、「食」に対するサービスは確実にグローバル化している。これまで日本で学んできたものをアジアに対してどれだけ提供できるかが、今の私の仕事上の最大の目標である。

Boys, Be Ambitious. 祝 北大水産学部100周年。

●社員11名。本社は東京。青島(中国)、ロンドン、ジュネズに関連会社がある。農産物を中心とした輸入商社で出発したが、現在は畜産物、水産物、加工食品を取り扱い、世界中から食を輸入。写真は東京本社。蟻田さんは写真上の一番右。



社会で活躍するOG・OB good job グッジョブ!

イカ・タコを追いかけて三十余年。世界初、中深層性巨大イカ類の行動生態に関する情報を発信。

国立科学博物館 窪寺恒己(50増卒)



この数年「世界初・ダイオウイカの生きた映像撮影に成功」で、日本のみならず世界の主要な新聞やメディアの取材を受けることが多い。その際、「なぜダイオウイカの研究を始めたのですか?」とよく聞かれる。考えてみるとイカ・タコ類の研究にとっぴりと浸って既に三十余年、そのきっかけは大学院で海洋生態学に精通する辻田時美教授から「君は北洋のイカ類を研究テーマにしないさい」といわれたことに始まる。

イカの「イ」の字も知らなかった私が、「北太平洋亜寒帯域における外洋性イカ類の生態学的研究」で博士号を修得できたのは、

頭足類研究の第一人者である奥谷喬司博士という得難い指導者に恵まれたことによる。そして、奥谷先生が国立科学博物館から東京水産大学へ異動された際、幸いにも先生の後任として動物研究部にポジションを得ることができた。その後、日本列島自然史総合調査、第28次南極地域観測隊、海外学術調査、日本周辺海域の深海性動物相調査など、多くのプロジェクトに参画し様々な海域でイカ・タコ類を採集し、基礎的な分類学・生物学的研究を行ってきた。

2002年、国立極地研究所の内藤靖彦博士から動物行動研究の新しいテクニックを教わり、その機器により04年にダイオウイカの静止面撮影に成功した。そして、05年にはヒロレイカの捕食行動・生物発光の動画撮影、06年にはダイオウイカを釣り上げその動く姿をハイビジョン映像で撮影と、すべて世界初となる中深層性巨大イカ類の行動生態に関する情報を発信し、一躍世界中の注目を浴びることになった。

イカ・タコ研究を続けてこられたのも、岐路となる要所・要所で進むべき道に導いてくださった恩師と研究活動を陰で支えてくれた家族のおかげにほかならない。多謝。

●82・83年に米国オレゴン州立大学海洋学部で研究助手。84年、国立科学博物館動物研究部に採用。主に海産無脊椎動物の調査・研究・標本収集・管理を担当し、現在は動物研究部・海産無脊椎動物研究グループ長。

台湾人のパートナーと共に 飲食管理会社を北京に設立。

北京康泰吉飲食管理有限公司 江下健一(平6食卒)

今私は上海に住んでいる。2003年6月、
商社の駐在員として中国に足を踏み入れ
てから4年が過ぎた。

05年6月、私は本社からの帰任命令を
機に、台湾人のパートナーと一緒に飲食管理
会社を北京に設立した。現在、「桜木拉面」
という屋号のラーメン店をFC展開している。
北京にて1店、天津1店、上海2店、ハルビ
ン3店(他2店契約済み)を展開中である。
他に、上海にて焼肉店、ステーキ&ハンバー
グレストランの業態プロジェクト・運営管理
業務も行って来た。

最近、南京西路にてオープンさせた「ステ
ーキ&ハンバーグレストランHUNGRY」は、
上海初のカジュアル「ステーキ&ハンバー
グ専門店」である。今年中に2、3店を開店
させ、FC展開を行っていくつもりである。

私の会社は、「業態開発業」「加盟者開
発業」の事業を柱としている。加盟者開発
について、専らパートナーである台湾人が行
っている。ここで簡単にパートナーの紹介を
させていだきたい。台湾では、マクドナルド、
ケンタッキージャス等大手有名外資飲食会社
のマネジャーとして働き、その後、中国大陸
に渡り15年以上飲食業を行っている。最終
は「頂新グループ」飲食管理会社(06年外
食ランキング 中国第8位会社)の北京支
社長を行ってきた。中国にて10年以上も加
盟者開発を行ってきた。中国にて2000人以
上の潜在加盟者リストを所有している。中



●国家知識産権局の劉氏(写真右)と。

●上海にオープンさせた焼肉店(写真
一番左が江下さん)。上海では、上
海林龍知識産権諮詢服務有限公司
(特許ブランド申請及び保護、コン
サル会社)、上海龍彦格環保科技有
限公司(環境事業会社の経営にも
参画している)。

国における飲食業・FCビジネスと、日本と
の違いについて連日討論したのを思い出す。
水産学部を卒業以来、大手レストラン会
社ユートキョー購買部に7年、アメリカ
エルパソホリデイインホテルにて1年、伊藤
忠グループユニバーサルフードにて5年(内
2年は中国駐在)が私のサラリーマン人生
である。今は「経営業」を日本・中国の社会
から勉強をさせていだいている。
「やる気」「元気」「根気」の3つの「気」
を持って、これからはチャイナドリームを追
い求めて行きたいと思っている。

ベトナム、タイなどの海産物メーカーに赴き、 養殖方法や加工方法の指導を行って原料確保。

F&Aインターナショナル(株) 高取一磨(61食卒、63MC修了)

なつかしい函館の生活で思いつくことと
いえば、実験をサポートしては地図を片手にオー
トバイで山奥に向かい、道に迷いながら動物
に遭遇したり、こぼれんばかりの星空の中
に流れ星を見ついたり。およそ勤勉とは言
いがたい学生を許してくださった先生方の
懐の深さに改めて感謝している。

就職後、私の勤務地は様々に変わった。
日本国内の研究所から台湾、中国、そして
現職。中国の工場勤務では、ちょうど中国
野菜の農薬問題が発生した時で、現地スタ
ッフと共に黒龍江省、新疆ウイグル、海南島
など何千キロも離れた産地まで赴き、安全
を確認して原料を確保しなければならな
いことがあった。ところが、文化も習慣も異な

る国で「日本の要求」を訴えたところで、そ
う簡単に折り合いはつかない。お互いの接点
を見出すのに有効であった方法のひとつは、
5年間でドラム缶一本ほど飲んだ中国の「白
酒」かもしれない。そこで得られたものは、
原料はもとより、各地の人々とのつながり
や信頼関係だった。

現在はベトナム、タイなどの海産物メーカ
ーに赴き、安全な養殖方法、安心な加工方
法の指導を行って原料を確保するという業
務を行っている。先方のネゴシエーターには
日本人が忘れかけているほど大きな夢を見
る青年実業家もいたりして、新鮮な感動を
覚えることも大いに手こずることもしば
しばである。

しかしながら、試行錯誤を繰り返しながら
「地図」に描かれていないもの・事を読み
取り、進んでいくことは、学生時代に道に迷
つてあちこち彷徨っているうちに出口が見
えてくるような感覚と通ずるものがある。
学生の皆さんには、遊びもどことん真剣に
やってほしい。遊びを通じて知る世界のし
くみ、社会のしくみも少なくない。たまに
遭遇する「痛い目」は一生の教訓になるよう
な気がする。

●代表取締役社長・高取一磨さん。味の素(冷凍食品)の
関連会社で、食品原料の専門商社である。世界
中から原料を輸入し、日本、中国、タイなどの関
連会社に供給する仕事をしている。



Hello! 研究室

水産科学をささえる
微生物学の魅力

笠井 久会 (かさい ひさえ) 先生

海洋応用生命科学部門 助教(博士・水産科学)。採用以前は水産科学研究院でCOE学術研究員を務める。



「微生物学」は非常に広範囲にわたる学問分野だ。食品衛生学や魚病学、ウイルス学や免疫学を、海洋や水産業の現場に応用することで、様々な産業や研究に活用可能なシーズが芽生える。笠井先生の研究室にうかがって、その先端的な研究の魅力と研究室を「紹介いただいた」。

梅野：はじめまして。海洋生物生産科学科4年生の梅野淳です。笠井先生にはバドミントン部の顧問として、日頃からお世話になっています。

笠井先生：よろしくお願います。

梅野：私の所属学科は笠井先生の担当学科

と違うので、そもそも「微生物学」がよくわからないところがいっぱいあります。先生は普段どういったことを研究されているのですか？

笠井先生：魚の病原微生物の研究をしています。魚が病気にかからないようにするために必要な対策を立てることが目的です。

梅野：具体的な研究対象は？

笠井先生：これまではサケが多かったですね、やっぱり北海道に大学がありますから。同じ研究室の吉水先生は30年以上前からサケの病気を研究しています。養殖が盛んなヒラメも多く研究しています。研究は、まず病原体の検出から始まります。

前田：病気を起こさせないというのと、その病原体をなくすということですか？

笠井先生：感染を防ぐためには、親の選別をしたり、病原体のいない環境を作る必要があります。そのためにはどうすればいいか。これはなかなか難しいです。ウイルスを主に研究しているのですが、すべての病気を研究しているわけではありません。魚の病気には種類が多く、原因となる生物にも様々な種類があります。

前田：食品に付着する微生物も研究しているのですか？

笠井先生：食品だと、魚と人間の体温との違いが肝心。人の体温で増えるかどうかの問題になります。今のところ寄生虫以外で人魚共通感染症と呼べるようなものは見つかっていないので、そもそも魚は安全な食べ物といえます。

鹿島：僕は仔魚の研究をしているので普段から顕微鏡を使っているのですが、先生も顕微鏡をのぞいたりするのですか？

笠井先生：菌の分類のために生化学的な性状も調べますが、形態学的な特徴を調べるために顕微鏡も使っています。

鹿島：観察をしていて、かわいいーって思うことありますか？

笠井先生：構造として美しいと思ったことはあります。(奥のほうから別の本を出してきて)これ、寄生虫ですごくきれいな。トリコジナ症の原因となる寄生虫「トリコジナ」。今はこれが問題となっているようです。昔なら、薄めたフォルマリンに魚を漬けて、簡単に寄生虫を落とすことができたのですが、今は規制があつて使えないので、新しい対策が求められています。

梅野：是非、笠井先生に開発して欲しいです。

笠井：でもそう簡単にはできないです。

前田：微生物を研究しているせいで、魚貝類が食べられなくなったりしませんか？

笠井：カキを見ると、すぐ実験しなくちゃって条件反射的に思ってしまう気がしなくなる場合があります。でも、カキはちゃんと食べられますよ。

鹿島：生物が対象の場合、実験を夜通しやらなくちゃならない時とかありますか？

笠井：あまり夜通しにならないような実験計画を立てています。培養さえできれば、いつでも生きた微生物を扱えるので、困りません。細菌・ウイルスは冷凍保存もできます。でも、無菌操作をするために頻繁に火をつかうので、学生さんには先生のいない夜中に実験をさせないようにしています。実験に熱中して、ガスバーナーで前髪を焼いてしまったことがあります(笑)。

前田：ところで、水産学部で40年ぶりの女性教員ということですが、どういうきっかけで先生になろうと思ったんですか？

笠井先生：特に女性だからという意識込みはなかったです。水産学部入学のときから3割以上女性だったし、うちの分野は女性の博士課程の学生も多いので、気に留めたことはありません。修士修了の時、研究で仕事を続けられればいなあと、漠然と考えていました。

前田：女子学生への応援メッセージがあれば



●学生たち(左から前田さん、鹿島君、梅野君)

インタビューを担当した学生たち ●前田 晃子：海洋生物生産科学科4年生。青森高校卒。卒論はマコガレイの摂食に取り組んでいる。 ●梅野 淳：海洋生物生産科学科4年生。大阪府初芝富田林高校卒。普段はイカナゴの生態を研究。金融機関に就職内定中。 ●鹿島 傑：海洋生物生産科学科4年生。東京都日比谷高校卒。卒論はウスマバルの初期生活史。大学院進学を目指している。



【インタビューその後】
笠井先生の、バドミントン部の先輩とは異なる側面を垣間見られて、興味深かった(梅野)。さばさばした先生で、同じ女性としてあこがれました(前田)。話しやすい先生で、本当に楽しかったです(鹿島)。

笠井先生：女性だからといって、気負うことは全然ありません。研究は本当に男女平等な世界ですから。

学生同：お忙しい中ありがとうございました。

退職のごあいさつ

ともに歩んだ日々、かけがえのない時間、
忘れられない出来事、そして風景……。
本年3月、数々の思い出を胸に退職された先生方から、
同窓の皆さまへのメッセージ。

**学生、院生諸氏と
楽しい年月を
重ねられたこと、
何よりも幸せな思い出。**



三宅秀男(特)

冬季札幌オリンピックが開催された年の夏に赴任し、34年8か月の長きにわたってお世話になりました。この間北洋水産研究施設から水産海洋科学科に配置換えになり、主に海洋調査や漁場環境調査に明け暮れました。北洋研に所属していた頃には漁業学科の乗船実習に乗せてもらい、オホーツク海では上野、藪、島崎先生と飲み明かし、翌朝食前に小型巻き網の巻き上げを学生と一緒にしたことなど、今から思えばびっくりするようなことをしていたのだなあと感慨無量です。

ナンセン転倒採水器の取り付け、温度更正、サリノメーターによる塩検、溶存酸素の測定など随分やったものです。流速計の係留では北星丸の山本船長や石井航海士に我が儘をいっばい聞いて貰い、設置、回収を繰り返しました。乗組員の方にたくさん手伝って貰ったことを感謝しております。寄港地ではいつも北水同窓会のあたたかい歓迎会に同席させてもらい、

北水の強い絆の源を垣間見ることができました。

研究施設では院生がなかなか来てくれず、早く学科を持ちたいと思っていました。10年前の改組で希望がかなない、自前の水産海洋科学科で学生を育てることができました。おしよ丸での実習航海、うしお丸やサロマ湖のフィールドを通して、学生、院生諸氏と楽しい年月を重ねられたことが何よりも幸せな思い出となっております。

北水同窓生の皆様のご健勝と水産学部の発展を願って退職の挨拶とします。長い間ありがとうございました。

**助手に採用になった時は
大学紛争の真っ最中。
振り返れば、
あれから38年。**



山本勝太郎(42才)

東京オリンピックの昭和39年10月に函館に移行し、漁業学科の漁具設計学講座(旧漁具物理学教室 黒木敏郎教授)に所属し、昭和42年3月に水産学部を卒業しました。そのまま大学院水産科学研究科へ進学、修士課程修了の昭和

44年4月に助手に採用されて以来、大業を二歩も出ることなく、38年間母校に勤めさせて頂きました。

助手に採用された時は大学紛争の真っ最中で、東大の入試が見送りになった年でした。政府の大学法案(大管法)に反対して、水産学部では連日のように6者会議(教授会、助手会、院生協議会、学生自治会、教職員組合、北大生協)が開かれました。そして、この年の11月には学生の一集団によって本館(現在の講堂と一体になっていた建物)が封鎖される事態となりました。

助手に採用された年はこのような年でしたが、38年の丁度半分の19年間で助手として務めました。振り返って見るとこの助手の時代が一番懐かしく楽しかった様に思われます。夏休みに学生達と一緒に巻尺と竿を使って人海戦術で行った平磯調査、魚探と測量用水準器を使った漁場図作り、モルタルを捏ねて作ったテトラポット模型、院生と競い合って作った容量式波高計、今も水槽実験で使っている防水型の2分力計の製作等々。この助手時代に実際に手を動かしながら経験した多くの事が私の教育・研究の糧となりました。

北水同窓会では、平成8、9年度米田義昭(昭34)幹事長の下で庶務幹事を務めさせて頂きました。この期の幹事会において会費の値上げが検討され、平成9年度の定期総会(平成10年5月青森で開催)において北水同窓会の会費がそれまでの3,000円から4,000円に値上げすることが承認されました。

それから今年で10年目を迎えることになると思うと感慨深いものがあります。最後に、今年創基100周年を迎える水産学部・水産科学院・水産科学研究院の新たな発展を願い、併せて同窓各位の益々の活躍とご健勝を祈念いたします。

**学生全員が無事に
練習船航海を終える
ことができたこと、
船の方々に深く
感謝いたします。**



村上 敬(特)

昭和50年に漁業学科助手に奉職し、水産海洋科学科の今日まで長きにわたって勤めさせて頂きました。當て退職される方がよく何十年勤めて...というのを聞くたび「ウワーすごいな」と思っていたのに、何と自分がそうなってしまいました。

私は漁業学科に来たにもかかわらず船が弱く、水産学部でもトップにあがられていました。うしお丸では朝出港して夕方には酔っ払って帰り、馴致せぬうちに次の日また酔って帰るといって繰り返して、船酔いに対する自分の何たるかをマスターすることも「仕事でした。現在、うしお

退職のごあいさつ

丸は昼夜を問わない連続観測が可能で日変化する現象とそうでないものの分別も出来る運行体制に変化し私は期待しております。北星丸、おしよ丸による深海係留系設置・回収に行く度に「GPSは有り難い」とつくづく思った。また何よりもこれまで学生全員が無事練習船航海を終えることが出来たことなど等、この紙面を借りて船の方々に深く感謝申し上げます。

船といえば車もつきもの、官用車の運転は奉職前に運転履歴の無かった私にとつて練習も兼ねた処女航海のようなものでした。講座のマツダファミリア・バンを院生の座る助手席の足元へ水が入ってくるまで(オンボロになるまで)使用させてもらいました。うしお丸の職員が毎朝毎晩函館臼尻間を陸上勤務する姿を見く、船の運行スタイルに矛盾を感じたのもそのころです。漁業学科の海洋訓練、定置網実習、10 k b のNEAC電算機1台という計算機環境などなつかしいものがあります。水産海洋科学科においては相似性に注意を払いつつも三宅先生や大西先生と流体力学実験の授業をやることになり、学生と共に考える授業の楽しさ、自然現場での洋上実習とはまた違う魅力を味わっています。

最後に今後とも物理、化学、生物系の人的交流を進められ北大水産を進展させられますよう祈っております。それでは皆様、実に長きにわたってお付き合いただいたきありがとうございます。重ねて感謝の気持ちを申し上げて挨拶かえたいと思います。

定年退職、そして100周年を契機に北水同窓会・幹事長を退任することに感慨を覚えます。



猪上徳雄 (41セ)

本年3月末日をもって退職いたしました。昭和37年に北海道大学に入学して以来、学生として9年間、教務職員として3ヶ月、教員として35年間北海道大学に在籍し、お世話になりました。

この間、学部あるいは研究室の先生方から勉学・研究の進め方と同時に、教員として勤務するにあたって必要なことを多く学ばせていただきました。また、学生時代には先輩諸氏や同僚たち、北水同窓会では同窓諸先輩の皆さん、さらに少しですが大学の教務・管理的なことに関わった時には教職員に恵まれてこの日を迎えることができたことに感謝申し上げます。

水産学部は、約100年を経て今世紀の新しい教育研究体制が整いました。この流れの中で、教育の質の向上面で多少なりとも関わることで、少しは母校に恩返しできたのではないかと考えています。北水同窓会では、平成16年5月から

3年間にわたり本部幹事長として、微力ながら水産学部創基100周年記念事業準備に深く関わってまいりました。この間同窓の皆様には、母校のために無理な寄付金をお願いをし、ご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。そして、水産学部創基100周年式典を契機に幹事長を退任することに感慨深いものを感じます。これからは、同窓として母校を支援する所存でございます。母校水産学部の二層の研究発展と社会で活躍する人材育成を期待して止みません。終わりに当たり、今までお世話になりました皆様様に感謝申し上げますと共に、本同窓会員の皆様のご健勝を祈念し、退職・退任の挨拶といたします。

同窓会の仕事を通じて得ることができた友人たち。この「絆」は、退職後も続きます。



田島研一 (43食)

2007年3月末日を以って、昭和48年8月、助手に任官以来33余年の教育・研究生活を定年退官により終了しました。この日を無事迎えることが出来ました

のは偏にご指導頂いた先生方、同僚、学生さん達、事務方の人々のお陰と感謝申し上げます。

この在職期間に、同窓会の仕事にも何度が携わりました。すべて組織部の「親潮」と「名簿」の発行でした。最初の仕事で助手時代の名簿の発行で、漁場講座の西山先生がチーフでした。思い出しますのは、函館ドックの広告で会社の船のマークが逆さだったのに気付かず先生がドックまで頭を下げに行かれました。助教時代には、名簿の作成が電算化され、出来上がった名簿の落丁に気付かず発行してしまい、今度は私が次号で皆さんに頭を下げることになりました。いまは思い出です。

同窓会の仕事は私達にとつて確かに余分な仕事ではありませんが、ただ同窓会で発行している「親潮」を通じてあるいは各支部での活動や会合などを通じて会員同志の絆が強まり、広がっていっただければ我々の学校での仕事も報われます。私も在職中にこの仕事を通じて異なる分野の先生方と友達になることが出来ました。その絆は退職後も続きます。

ただ、これから同窓会の仕事に携わる先生方は大変ご苦労されると思います。4月から専攻事務室がなくなり、研究室の事務的な仕事がすべて先生方の肩に押し掛かってくる。また、最近の学生には何かと手がかかるようになり、求められる時代です。そんな中、先生達には頑張ってもらって、同窓会も盛り上げてほしいと願っております。

親潮インフォメーション

北水同窓会総会

第87回定期総会報告が、平成19年5月26日(土)に北大水産学部創基100周年記念行事に合わせて開催されました。総会内容及び資料につきましては、北水同窓会のホームページに掲載しておりますので、ホームページ<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp/>にてご覧いただけますようお願いいたします。パスワードは「oyashio」です。

会員異動

平成19年1月1日から6月30日の異動
定年退職(19年 3月31日)

猪上 徳雄(41セ) 海洋応用生命科学部門安全管理生命科学分野
田島 研一(43食) 海洋応用生命科学部門海洋生命工学分野
三宅 秀男(特) 海洋生物資源科学部門海洋環境物理学分野
山本勝太郎(42ギ) 海洋生物資源科学部門海洋資源計測学分野
清水 幹博(42ノ) 海洋応用生命科学部門増殖生物学分野
村上 敬(特) 海洋生物資源科学部門海洋環境科学分野

学位取得者と論文題目

北海道大学博士(水産科学) [H18.12.25] 課程博士、北海道大学博士(水産科学) [H19.3.23] 課程博士の取得者・論文題目につきましては、詳細を北水同窓会のホームページに掲載しております。
ホームページ<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp/>にてご覧いただけますようお願いいたします。

平成18年度進路状況一覧

北水同窓会のホームページにて、学科及び課程別に掲載しております。
<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp/>にてご覧いただけますようお願いいたします。

会員死亡通知

遠藤大賀思(5セ) 平成 6年 7月27日 松村昌幸(30セ)様より
内田 正男(13セ) 平成18年10月26日 東京支部様より
藤尾 俊二(17セ) 平成18年12月12日 ご家族様より
本田 秀則(18ギ) 平成18年11月10日 愛知県支部様より
大石 圭一(19セ) 平成19年 4月17日 川合祐史(55食)様より
岡田立三郎(20ギ) 平成18年10月31日 東京支部様より
稲富 敏之(22ギ) 不明
中山 卓三(22セ) 平成19年 4月13日 清水富士雄(36工)様より
佐藤 利蔵(23ギ) 平成19年 3月22日 倉兼賢治(46ギ)様より
荒木 昭夫(25セ) 平成19年 3月 4日 村井太郎(50ギ)様より
佐藤 慶一(25セ) 平成19年 1月29日 ご家族様より
滝沢 陽一(25セ) 平成18年10月21日 ご家族様より
進藤 尚(26ギ) 平成19年 2月27日 ご家族様より

有朋自遠方来不亦楽乎

平成19年2月～平成19年6月、研究室を訪問された方々(敬称略)

海洋生態系保全戦略

長澤有晃(29ノ) 5/26、大西勝弘(41ノ) 5/26、関二郎(48ノ) 5/17、荒金利佳(平5ノ) 5/16

食品生化学(旧生化)

坂本英明(平18食) 3/24

海洋生物工学(旧水産高分子化学)

山本紗代(平18修士) 5/8

海洋生物工学(旧微生物)

武田(小松) 恵里子(平16海) 3月、村重朋浩(平17海) 3月、二見規子(平17海) 3月、武田岳史(平18海) 3月、大村富範(52食) 3月、昆布屋紀寿(40食) 5月、中村昌毅(54食) 5月、藤本勝彦(61食) 5月、田中宏朗(平7食) 5月

育種生物学(旧水産植物)

長谷川妙子(平16生) 3/24、進藤雅紀(平15生) 5月

生物資源利用学(旧食品化学第一)

上野利之(平13資) 2/7、佐藤暁之(平10食) 3/6、中田邦彦(61食) 5/26、十河和明(56食) 5/26、中秋勝彦(52食) 5/30

衛星資源計測学

溝端浩平(平12海) 6/1、笹岡晃征(平8ギ) 6/1、飯田高大(平13海) 6/1、石河望美(平15海) 6/21

海洋生物学講座(旧浮遊生物学講座)

山田奈央(平16海) 2/2・3/8、木戸和男(51修漁) 2/20、河村章人(37ノ) 2/22・4/6・5/26、高橋孝三(47化) 2/26、小針統(平8修増) 3/3、西部裕一郎(平18博生) 3/3、宮崎和貴(平10ノ) 3/19、雑賀修(53ノ) 3/22、斉藤和敏(47ノ) 4/2、加藤健(平17海) 4/10・4/16・4/25、高橋信之(平12海) 4/28、鼓黒先生(元教官) 5/23、小川法章(29ノ) 5/25、宮園章(58ノ) 5/25、箕田嵩(31ノ) 5/26、山田信夫(30セ) 5/26、町田建治(36ノ) 5/26、吉野生壮(37ノ) 5/26、睦地清信(40ノ) 5/26、小山章夫(42ノ) 5/26、福地光男(45ノ) 5/26、佐藤達夫(46ノ) 5/26、新川智昭(56ノ) 5/25、新川(館) 加奈子(56ノ) 5/25、飯島亜内(平12海) 6/1、木谷浩三(47博漁) 6/12、出来祐治(平4ノ) 6/15

平川 龍治(28工) 平成19年 3月27日 佐野典達(28工)様より
満野 修(28工) 不明 手島邦明(28工)様より
三田村幸祐(30ギ) 平成19年 2月28日 山崎守信(30ギ)様より
杉本 恒夫(31工) 平成18年10月28日 ご家族様より
大塚 勝(34セ) 平成19年 5月 1日 沖 忠良(34ノ)様より
高星 好英(34ノ) 平成18年 8月16日 東京支部様より
加畑 裕康(35ノ) 平成18年 9月29日 東 幹也(35セ)様より
村山 忠昭(45化) 平成19年 1月18日 ご家族様より
川田 倫夫(54食) 不明 元勤務先より
春川 淳(54食) 平成19年 4月23日 高橋是太郎(50食)様より
福田 博之(58ギ) 平成18年10月14日 ご家族様より
阿部 康二(平4ギ) 平成17年12月 元勤務先より

【講堂】



▲撮影／瀬川修平(海洋生産システム学科)

1935年(昭和10年)、函館高等水産学校設立時に本館講堂として建設された、函館キャンパスに現存するもっとも古い建物。その通称の「トドウラ」としてご記憶の同窓生も多いことだろう。その後の改築を経て現在でも卒業式などの行事に利用されている。



編集後記

平成19年度の「親潮」第1号(通算289号)をお届けいたします。5月末には創基100周年記念事業が開催され、たくさん同窓生の皆様に函館にご参集いただきました。これを契機に、北水同窓会誌「親潮」も誌面を全面改訂・カラー化して新たにスタートすることに致しました。今後は「今、水産学部で何がおこっているか」など、函館から同窓生の皆様への情報発信に特に力を入れてゆきたいと考えています。すべての同窓生の皆様により読みやすい同窓会誌をご提供できるよう、また、若い皆様には同窓会を身近に感じその活動を理解していただけるよう、編集部一同努力してまいります。同窓生の皆様におかれましてはご理解のほどお願い致します。また、同窓生の皆様からたくさん寄稿・原稿を頂戴しましたが、誌面の都合上、本号に掲載できないものがありました。次号に必ず掲載する予定となっておりますのでこの点をご理解の上、ご容赦下さい。

今年度第2号(通算290号)の原稿締め切りは平成20年1月10日を予定しております。同窓生の皆様には「親潮」に多くの原稿をお寄せいただくようお願い致します。

(編集幹事／都木靖彰)

親潮投稿規定

【寄稿】

お一つのご投稿につき A4版・1ページ(2000字程度)とする。この制限以上の長文あるいは連載をご希望の場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また、写真はホームページに掲載することもできる。

【支部・会員だより、会員の受賞、ご案内など】

お一つのご投稿につき600字程度とする。写真を入れる場合、その分文字数が減る。写真はホームページに掲載することもできる。なお、掲載の可否および掲載号については編集部が決定する。

また、誌面の都合上、ご投稿の文章を編集部で再編集する場合がある。

【新しい親潮の感想をぜひお寄せください!】

新しい親潮をお読みになったご感想やご意見をぜひ編集委員宛にお知らせください。また、取り上げてほしい特集や連載記事の内容も募集します。今後の参考とさせていただきます、より親しみやすい誌面をめざします。

宛先

〒041-8611 函館市港町3丁目1-1 北海道大学水産学部同窓会
FAX:0138-42-3681 E-mail:hokusui@hotmail.or.jp

同窓会誌作りに参加しませんか? 学生ボランティアさん募集

今号の親潮は、間篠智恵子さん、瀬川修平君に各種写真撮影を、前田晃子さん、梅野淳君、鹿島傑君に「Hello研究室」のインタビュアーを担当していただきました。同窓会誌「親潮」は在学生と先輩を結ぶメディアでもあります。あなたも親潮の編集をお手伝いしてみませんか? 興味がある方はぜひご一報ください。

連絡先 編集幹事 井上 晶 e-mail: inouea21@fish.hokudai.ac.jp

食文化の急速な国際化に伴い水産総合商社を目指す道水



株式会社 道水

代表取締役会長 高野 洋藏

(昭和24年製造科卒業)

代表取締役社長 高野 元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本社 函館市豊川町27番5号 TEL(代)0138-22-7136 FAX 0138-22-3777

事業所 はこだて工場 (北斗市)

東京・札幌・仙台・長岡・韓国釜山

墓石
東日本石材

高さ19メートルの
時計付広巻巻が自印!

第2-新東山墓園
第1-新東山墓園
阿田土津
フォリスト
ニュータウン
一光園
北林
銀行
五稜報公園

幸園KQゴルフ
カントリークラブ
屋内墓石展示場
正門 市富東山墓園 裏門
●セブンイレブン
●GS
●ホームプラス
●三和シャッター

**日曜
祝日営業**

墓石はもう一つの「家」

家族が集い、語り、団らんする。「家」と「墓石」には相通する役割があります。家づくりに、じっくりと時間をかけるように、墓石づくりにも、こだわりを深めませんか。お墓にかかわるあらゆるご相談は、実績信頼いちばんの私たちにお任せください。最新の技術と親身の真いで、皆さまの「思い」をカタチにいたします。

彫刻芸術に感動!! ———— **アートムーヴシリーズ**
独自の技術とデザインから生まれた 彫刻付墓石

新東山墓園指定石材店 **墓石なら 東日本石材株式会社** お問い合わせ TEL (0138) **54-3030**

〒041-0835 函館市東山1丁目7番2号市営墓園第5期造成地すぐ前裏門通り
カタログをご希望の方はお気軽にご連絡ください。

●ホームページアドレス <http://www.54-3030.com>
ジャックス墓石ローン取扱中

**大好評
展示中**

海洋土木株式会社

本社: 東京都中央区銀座3-8-13
TEL: 03-3561-3051
<http://www.kaiyodoboku.com>

利尻郡仙法志沖

FP魚礁

檜山郡上ノ国沖

FP魚礁に蟄集する
エゾメバル・クロソイ

オクトム

代表取締役 鉢木和三(38ゾ)
常務取締役 眞田篤弘(48化)
青森営業所長 青山禎夫(39ゾ)

ミスダコ産卵礁オクトム

交通、医療、労働災害事故・会社再建、倒産
サラ金破産、債務整理・個人再生・相続、遺言

法律相談
30分 5,250円
サラクレ相談無料

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

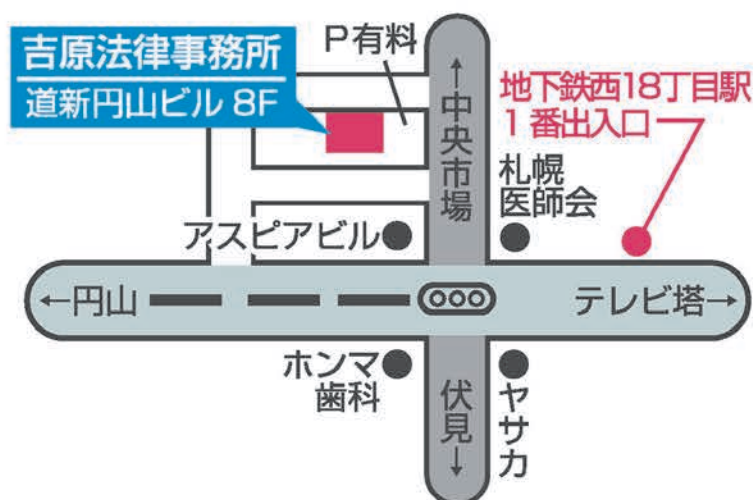
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(道新円山ビル8階)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) yosihara@sapporo-law.com



営業時間においでになれない方はご相談下さい。